

無想録 十 小人

竹の筒から天を見る。丸い穴にすぎない。小人ども、竹の筒より人を見る。針ほどのことが、棒はおろか、宇宙大に見える。

「われは完全なり」との意識は小人につきもの、強ければ、我慢の悪臭鼻もちもならず、人を虐げ、人を苦しめ、人をやりこめて得々然たり、大乘菩薩道を遠ざかることはなほだしい。弱ければ、涙の谷に墜落、センチャンの末路は流転しかない。

明治薬学専門学校長、恩田剛堂先生は「靈魂談」においていわく

「心に抵抗力の少ない人は、いかに強烈な悪言罵詈(ばつり)を受けても、けっして忿怒することがない。これに反して剛情剛腹な性質の人はわずかに軽微な悪言を聞かされても、たちまち激怒を示す。同じ針金でも細くすれば細くなるほどそれだけ電気に対する抵抗が多くなり、これに反して太くすればするほど電気に対する抵抗が少なくなるのであるから、細い針金に電気を流せば針金は赤くやけるが、太い針金に電気を通したのではその針金はなかなか赤くならん。これによって考えても、怒り易い人の心の狭いことが察知せられる。」と。

怒る者、自分の筋の細いことに気づかず、たたいたものを悪く言う。しかし細い針金は、気にいらぬ棒で打ちのめすよりほかに太らす方法はない。

我慢強き者は小人である。我慢によって千人を傷つけ泣かすめつつあることには気づかず、そのくせ、称讚よりほかのことばは一言も受けまいとする。

感謝と、懺悔のないのが我慢の特徴である。そのくせ人には、感謝を強い、懺悔をおしつける。

英雄は尊ばねばならない。しかし英雄主義者は悪(にく)まれる。

温かき人格者は世の光である。しかし感傷主義者は孤立する。

英雄主義者と感傷主義者が集まると、悲劇が絶えない。

彼はだれの前にも、どんな真理の前にも、頭を下げない。

したがって彼の前ではだれも頭を下げない。

友達が頹廢的になってなまけると、自分もいつしよになまける。今日一日をただれただけで費す。

だが、この人たちの群の中には、将来の一世、一国、一社会を背負って立つ人たちはいない。

熱誠一貫！ 堅忍不拔の意志！ 小人に欠けたものがこれである。

素人政治家、伍長勤務上等兵の独逸国粹社会党主ヒットラーの上に世界の眼が集まる。独逸民族を背負って立った彼の上に。

小人は形態を真似る。景気のいい時ほどやっとな保たれる。人形ならば風雨にくだけ、人造人間には創造がない。

小人は小人に褒められることをのみ求め、偉人聖者は、自己の衷心の声に忠実である。

小人には後悔が多い。

後悔を懺悔にまで転回せよ。

「以て三尺の孤(みなしご)を托すべし。」とは、偉人の信頼さるべきを言うのである。三尺の孤どころか、一会社の会計すらまかされない。信じてまかせるに足る時、人はやっとな一人前である。

小人には低級な策略がつきものである。明治維新の初め、大江戸を兵火より救った大西郷と勝海舟の腹、あんな大きなことは小さいはからいからは生まれない。

偉人は刻苦勉励して一つの結論を成就し、小人はやすやすとその結論を記憶する。2
前者は一生の心血の結晶であり、後者は単なる知識である。

私憤のためには時に七人の人を殺した者がある。しかし万人のために、大道のために戦う大慈悲の人は少ない。

小人はただ平和を求め、偉人は七難八苦を恐れず。一切を受け取って彼を生かす食物とするからである。

われに都合がいい人が大人物であり、自分に都合の悪い人物が小人物に見える。明君は賢臣の苦言に耳をかたむけ、聖者はかげ口にすらわが身をふりかえる。

小人の人物評価、耳をかす一文の価なし。

内省沈々、ただわが身の小人なるを知る。ただ凡夫なるを知る。